

## コラム 水産有用種の効率的な増養殖に向けた共同研究

疲弊している北海道日本海漁業の振興策に資するため、土木研究所では漁港・港湾の静穏域を利用した水産有用種の増養殖技術の確立に関する研究に取り組んでいます。具体的には、北海道南西部の漁港の港内水面を利用して、二枚貝であるアサリの養殖試験を平成 27 年度から実施しています。アサリの養殖試験に当たっては、アサリ種苗の調達、養殖方法の検討、アサリの生物学的な知見の収集、試験箇所の海域環境を左右する水温・塩分・波高・流速・クロロフィル等の把握が必要となります。しかしながら、北海道におけるアサリの養殖事例は少なく、この海域では未だ養殖技術は確立されていません。また、アサリの種苗生産技術は未だ開発段階であることから、その調達は容易ではありません。

一方、地方独立行政法人北海道立総合研究機構(以下道総研)においてもアサリ等の養殖業の定着を目指した研究を行っています。道総研では独自にアサリ種苗の生産を実施しており、生物学的な知見も多く有しています。しかし、漁港・港湾内の静穏特性等の物理環境に関する調査研究実績は少ない状況です。

そこで、漁港・港湾整備に資する研究実績を有する土木研究所と水産有用種の生態・養殖技術に関する研究実績を有する道総研は、平成 27 年度より「漁港・港湾静穏域を利用した二枚貝等養殖技術開発に関する研究」と題した共同研究を締結しました。これにより、多様な漁港・港湾での養殖可能水面の判定手法や、二枚貝養殖業に適した港内環境整備手法の開発が可能となります。なお、研究成果は地域特性や漁港・港湾の規模に即した養殖技術の積極的な普及と全国に向けた漁港・港湾の有効活用を含めた施策への反映に繋がることを期待されます。



写真-1 アサリ養殖籠(丸籠)



写真-2 蓄養施設内への設置作業

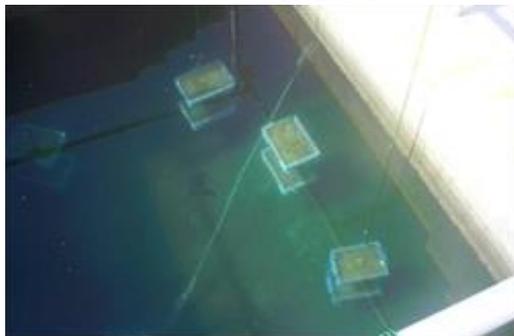


写真-3 養殖籠垂下状況



写真-4 アサリの殻長計測